

コネチカット州の避妊禁止法は、連邦最高裁により、権利の章典陰の規定*として、夫婦のプライバシーの権利を犯すものとされた。すなわち、この法律は姦通、乱婚、疾病予防を目的としているが、権力の行使の不必要な拡大により個人の自由を侵しているものである。

□□プライバシーの権利に対する立入検査権□□

カリフォルニア州上級裁判所は、サンフランシスコ住居法典による立入検査を連邦憲法修正第4条または第14条に違反しないとされた。すなわち、この法律は住宅の占有者、所有者に、生命、身体、健康および福祉の保護のために最低基準を保証するもので、監視は民事に関係する。この判例から、監視が違反を正すため、環境衛生の一部として、生命、身体、安全の保護のために適正に行なわれるならば、違反の事実を明らかにすることなく立入検査をすることが許される。すなわち環

* 憲法修正（権利の章典）第9条は憲法に特別に記載された権利は他の権利を否定するものではない。

境の保全という公共の利益のためにはプライバシーの権利の侵害が正当化される。裁判所は憲法の条文にないプライバシーの権利に、憲法による保証の地位を与え、一方プライバシーの権利の擁護は、現代における技術の進歩、社会のしくみ、都市生活と明らかに関係づけられるものとした。

□□ま と め□□

1965年連邦保健立法の長期的な見地からの意義は、政府の役割を公共の財政負担の拡大、医療サービスおよび卒業後の教育の新しい型の開発の方向に向けたことである。なお、システムエンジニアリング、オペレーションズリサーチの技術を行政に導入し、重点設定、効果的指導監督、行政改革等の技術的發展を



高度に発達した産業社会 における犯罪問題

激増している犯罪の原因と、犯罪者の扱い方について、現在多くの論議がなされてい

可能とした。また州においては新プログラム、新法が制定され公衆の要求に基づいた、適切な時間、場所、施設を保証するため、医療施設の公的規制を定めた。裁判所は現代に即し、個人とそのプライバシーの重要性を確認した。

公衆衛生の確立のための裁判所の判決、議会の議決の両者は基本的にあらゆる個人の権利の保証とさらにその人達に近代科学が可能とした最高の健康生活の権利を保証するものである。

E. H. Forgetson, "1965: The Turnig Point in Health Law—1966 Reflections," *American Journal of Public Health* Vol 57, No 6, 1967, pp. 934-46

(西 三郎)

る。とくに、警察の強化、罰則の研究、刑法の改正などに強い関心が向けられ、その中で

も犯罪問題の力点は、犯罪者の救済、更正面におかれているようである。しかし、犯罪の予防的側面については、あまり考慮されていない。

産業の急激な発展にしたがって、人々の生活は脅かされてきた。すなわち、世界的な経済競争に取り残されることをおそれて工業、商業面を重視するあまり、人々は急激な生活変化に対応できるだけの余裕が与えられてこなかった。

たしかに、病院など、精神的無秩序に苦しんでいる人々のための救済機関は増加しているが、産業の発達は、より高い生産性を獲得するための管理部門を強めてきた。その結果、個人は、この膨大な工業帝国の中で、とるにたらない存在となり、法律、秩序に対する信頼を失ない、物質面だけを尊ぶ傾向がでてきている。非行青少年や犯罪者のある部分、彼ら自身の存在価値を産業社会の中で認められなかった故に、罪を犯したのではないだろうか。

社会構造の変化

過去において、家庭は、若い世代の思考を形成する上で大きな役割を果たしてきた。しかし、伝統的な権力主義を否定する動きが強まり、また若者をより早期に独立させる傾向が生じ、それと同時に、伝統的家族支配に代わる社会の規律は、彼らの人格を押えつけることにだけ用いられてきたのである。

サークル、クラブなどボランティアな社会組織の一員として、また国の計画立案者の一員として、青年に一定の責任を分担させることが必要だといえる。

現在、10代の青少年の収入は非常に多いが、彼らの大部分は、それを合理的に消費したり貯蓄したりする分別がない。彼らの収入をどこか信用できる機関に「凍結」し、23歳頃に返却するという試みはどうだろうか。

また、労働者の余暇の問題を考えると、W. E. A. (労働者教育協会) の活動は注目に値する。それは必ずしも、国家運動とはいえなかったが、労働者階級から一定の支持を受けていた社会運動であった。そこに参加する人は少なかったが、彼らは職場で討論グループを組織し、地域社会をまとめてきたのであ

る。

しかし、労働組合の変質とともに、その組織は変ってきて、現在では社会活動にそれほど関心を示さなくなっている。

国家的な社会福祉計画は、たしかに、ボランティアな計画より確実性をもち、能率的に遂行されているようにみえるが、そこに費される予算の一人一人に対する還元分は、ごく小さなものである。このことは、最近、英国でごく短期間に行なわれつつある社会改革の一つの特徴であり、これが犯罪増加と何らかの関係があることはいうまでもない。

マスメディアの影響

ラジオ、テレビの発達により、少数の人間が非常に多くの人々に、ごく短時間のうちに影響を与えることが可能になった。現実逃避的な娯楽番組は、熱狂的なスター崇拜を生み同時に、小地域におけるグループ活動、教会の構外活動などの建設的世論指導を後退させ

てきている。いわゆるドキュメンタリーな教養番組でさえ、無秩序、無計画にテーマが選ばれ、その教育的価値どころか、混乱や困惑をひき起こしている。このマスコミという支配的機能も、現在の不安定な精神を招来する一つの要素である。

教育面での挑戦

すべての予算の中で教育予算はかなりの割合を占めている。しかし、教育のすべての分野の中で、最重点にされているのは科学教育、技術教育であり、個人の生活の質を向上させるための教育は、第二義以下に取り扱われている。

たとえば、クラウザー報告によると、教育は社会投資であると規定し、生産増強のために技術教育を強調している。そして、これを具体化するため、莫大な公費が、科学、技術、経済などの分野における教育訓練のために配分され、また、工業技術の専門家養成の教育も現在では非常に年少のときから始まり、他の課程にくらべ、もっとも優先されている。それに対して一般教養課目は軽視されてい

るが、しかし、今日ほどリベラルな教育が必要なきはないのである。

我々は、科学者、技術者、発明家の頭から生まれた新しい道具を運用することだけに追われ、これがどんな結末になるのか、我々の生活にどんな衝撃を与えるのかなどについて考える時間がない。クラーク卿が述べているように、工業社会においては、伝統的ヒューマニズムと産業、政治が一体化しなければならないし、また言語学者、文学者などが、科学



ヨーロッパのホーム・メーカー

今日、カナダで働いている日勤の Homemaker は600人、すなわち約3万人に1人の割合である。もちろん地域的にサービスのないところもたくさんある。40年以上 Homemaker service が行なわれているトロントでは1万人に1人の Homemaker がいる。

イタリア以外のすべてのヨーロッパ諸国では、カナダと対照的に、おどろくほど多数の Homemaker が仕事をしている。スウェー

技術の教育者と協力して今日的課題に真剣にとりくんで、国家的な大討論の場を永続的にもつことが必要であろう。そうすれば、この「豊かな社会」における犯罪問題の解決の糸口がつかめるに違いない。

John Huddleston, "Crime in an Advanced Industrial Society", *Social Service Quarterly*, Autumn, 1967, pp.75-79.

(根本 嘉明 全社協)

デンは500人に1人の Homemaker がいて、もっとも幅広いサービスを行なっている。スウェーデンには994の地方自治体があり、そのすべてに1つずつ Homemaker の組織がある。これはオタワほどの大きさの都市には500人の日勤ワーカーがいることを意味する。他のスカンジナビア諸国もスウェーデンに近い状態で、フィンランドの計画はもっとも新しいものであり、農業人口が多く難しいにも